価値観を変えた運動会②

価値観を変えた運動会

私も人生の前半は「戦いなさい、努力しなさい、人より抜きん出なさい」という三次元的な競争社会の価値観に操られてきた人間です。ですから、そちらの世界を知らないわけではないし、その競争からドロップアウトした方でもないんです。

私は三十歳で結婚しまして、なかなか子供ができなかったんですが、三年経ってやっとできた子供が障害児でした。

この子が小学校六年生のときにこういう事件があったんです。

その日は運動会で、朝、その娘と母親が手をつないで出かけようとしていたときに、母親がとてもニコニコしてたものですから「なんか、えらく楽しそうだね」って声をかけました。

私は、原稿を書かなくてはいけないので、一人家に残る。妻がこう答えました。「今日は、もしかするとうちの娘がビリじゃないかもしれない」って。

どういうことかと言いますと、娘は、染色体の異常で体の筋肉が人の半分しかなくて、基礎体力も筋肉も発達してないがゆえに、走らせると人の三倍から四倍かかるんですね。

小学校一年から四年までは五〇m走なんですけど、五年生から一〇〇m走になる。ずーっと八人で走ってきて八番目。つまり、いつもビリだったんです。

まあ、私も妻も、勝つ必要はないって思っているんですけど「今日は、もしかするとビリじゃないかもしれない」と、妻がニコニコしながら言っている。

「どういうこと」って聞くと、クラスの中に一週間前にケガをした女の子がいるんだそうで、足首に包帯をグルグル巻いて一週間通って来ている。「ケガをしているんだから、徒競走はやめたら」って先生が言ったら「いや、どうしても走りたい」ってその女の子が言ったんだそうです。

で、その女の子と娘が最終組で走ることになった。もしかすると、初めてうちの娘は七位になるかもしれない。七位になろうが八位になろうが、全然かまわないし、こだわってないんですけど、嫁さんがそんな話をしながら楽しそうに出かけて行きました。

で、四時ぐらいに、またニコニコして帰ってきたんですね。

「どうしたの。楽しそうだけど、七位だったの？」

「それがね、やっぱり八位だったのよ」って言うんです。

私はケガをしていた女の子はどうなったのか知りたかったので、「その子はどうなったの」って聞きました。そうしたら、こういう状況だったそうです。

ヨーイドンで走り出して、他の子供たち六人が五〇mぐらいの所にいたときに、娘は一五m、ケガをしているので足を庇いながら走っていたその女の子は一〇mぐらいの所にいたらしい。

娘の方が速かったらしいんですが、その一〇mぐらいの所でその女の子がケガのためにやはり走りにくかったんでしょう。「キャッ」と声を出して転んでしまった。その転んだのを見たうちの娘が、「どうしたの？」って足を止めて、トコトコと逆走しまして、その子を助け上げて、その子の腕を持って、ずっと残りの九〇m一緒に走って、ゴールの手前で女の子の背中をポンッと先に押してから自分がゴールに入ったそうです。

でね、結局ビリだったんです。また。

でも、ゴール手前一〇mぐらいの所で、もう一度テープが張り直されて会場が割れんばかりの大拍手、大歓声に包まれたということなんです。「とても感動的なシーンだった」って嫁さんが言ってました。結果としてビリだったんですけど、うちの娘は帰ってきてもニコニコしながらテレビを見ているという状態だったんです。

その話を聞いたときに、私は非常に衝撃を受けました。

楽しい人生を生きる
宇宙法則
小林 正観 より

いかが感じられたでしょうか？

私は、何ともいえない感情が胸にこみ上げてきました。

私は、薬屋としてもう二十数年この仕事をさせて頂いていますが今、一番お客様から支持を頂いている症状は（腰・肩・ひざなどの痛み鼻炎・痔・ダイエット）で、二番目は（癌・肝臓・喘息・アトピーアルツハイマー）などです。

その意味を考えてみると、一番の支持の症状は、私自身が苦しんだ事がある症状で、二番目の支持の症状は、私自身の家族が苦しんだ症状なのです。

なぜこのような結果になっているかは、きっとこれらの症状の苦しさ辛さがよくわかっているからだと思います。

最高の薬屋は、もしかしたらお客様が苦しんでいる病気を全部、自分が経験している薬屋かもしれません。

私もどう治してあげるとかじゃなく、しっかりあらゆる病気症状を勉強し、まずどんなに苦しいのか、辛いのかを学ばなくてはいけないと思います。

病気ではあるけれど、元気にされている方の多くが、まるで自分の事は棚にあげて、他の身内などをしっかり思いやられる方が多いような気がします。

私も、この文の少女のように、少しでも真の思いやり・やさしさをもつ人間になれるように生きていかなくてはと思います。

P.S.

昔、指圧の勉強をしていた頃、指圧の先生が『肩一つ揉むのも無償の愛で揉む場合は、本当に元気になるのは、揉んでもらっている人より揉んであげている方なんですよ』とならった事を思いだしました。

くすりのキュート
倉光 浩城

価値観を変えた運動会①

家族にはいろいろな風景がある。そして、そのそれぞれの風景は、家族ひとりひとりの、こころの風景でもある。

会社勤めの十八年間、私はずっと人事部に所属していた。人事部は一見、華やかそうに見えるが、実は最もつらい職場なのである。社員のサラリーマンとしての悲しさを見るのが、人事部の仕事みたいなものである。

会社勤務の頃、五年に一回行われる会社の大運動会の会場で、私はある社員の家族の風景を見て、とても感動した。その大運動会は、会社が大きな遊園地を一日貸し切って、家族ぐるみで行われる大規模なものであった。

その遊園地の大観覧車の下で、ある社員の家族が楽しそうに弁当を広げていたのである。両親と小学生の女の子と、幼稚園の女の子の一家四人が、楽しそうに話しながら弁当を食べていた。

実は、この父親は会社では能力的にあまり評価されていない人だったのである。毎年、配置転換の対象となり、人事部の私は、職場の上司に頼まれて、その人の受け入れ先を探し回ったが、なかなか受け入れてくれる職場が見つからないのであった。とても真面目な人なのだが、仕事のスピードが遅いのであった。

その父親を囲んで、一家四人が楽しそうに弁当を食べていた。父親はそんな子供達を見ながら、満足そうにうなずいていた。父親が会社でどんな評価を受けていようと、そんなことは、この女の子達にとっては全く関係ないのである。そして、この子供達にとってはかけがえのない父親なのである。私は思わず目頭が熱くなった。

その時、小学生の女の子が言った。

「お父さん、今日は楽しいね。いい会社に入ってよかったね」

すると、母親が言ったのである。

「そうよ。お父さんのおかげよ」

私はまた、目頭を押さえていた。そして、その場をそっと離れたのであった。

（荒木忠夫著・「こころの風景」より）

この話を聞いて私は、直ぐにキュート玉名店に20年も長く勤めている田中さんの事を想いました。田中さんの口ぐせがまさしく**「お父さん（ご主人）のお陰で」**なのです。いつもその言葉を聞く度に、私自身も爽やかな気分になります。

（田中さんに逢うと安心する～、田中さんに逢うと元気になる～などと言って頂くお客様が多いのも同じ事かもしれません）

実際、店においても年令や病状にかかわらず、明るく、前向きに病気など吹き飛ばされていく方の多くの共通点は「感謝の言葉・話」を口ぐせの様にされる所のような気がします。

日本にある**「お陰様」**というすばらしい言葉を健康的な生活を送る栄養剤にしたいものです。

P.S.

私も妻（玉名店）と結婚して29年になりましたが、思い出すとず～と昔は**「お父さんのお陰」**と言う言葉を聞いた様な記憶がありますが、最近は**「お母さんのお陰」**という言葉ばかり耳にするような気がします。

「まぁ、それは仕方ないか？」

「まぁ、それでもいいかという気がします。」少しトホホ…